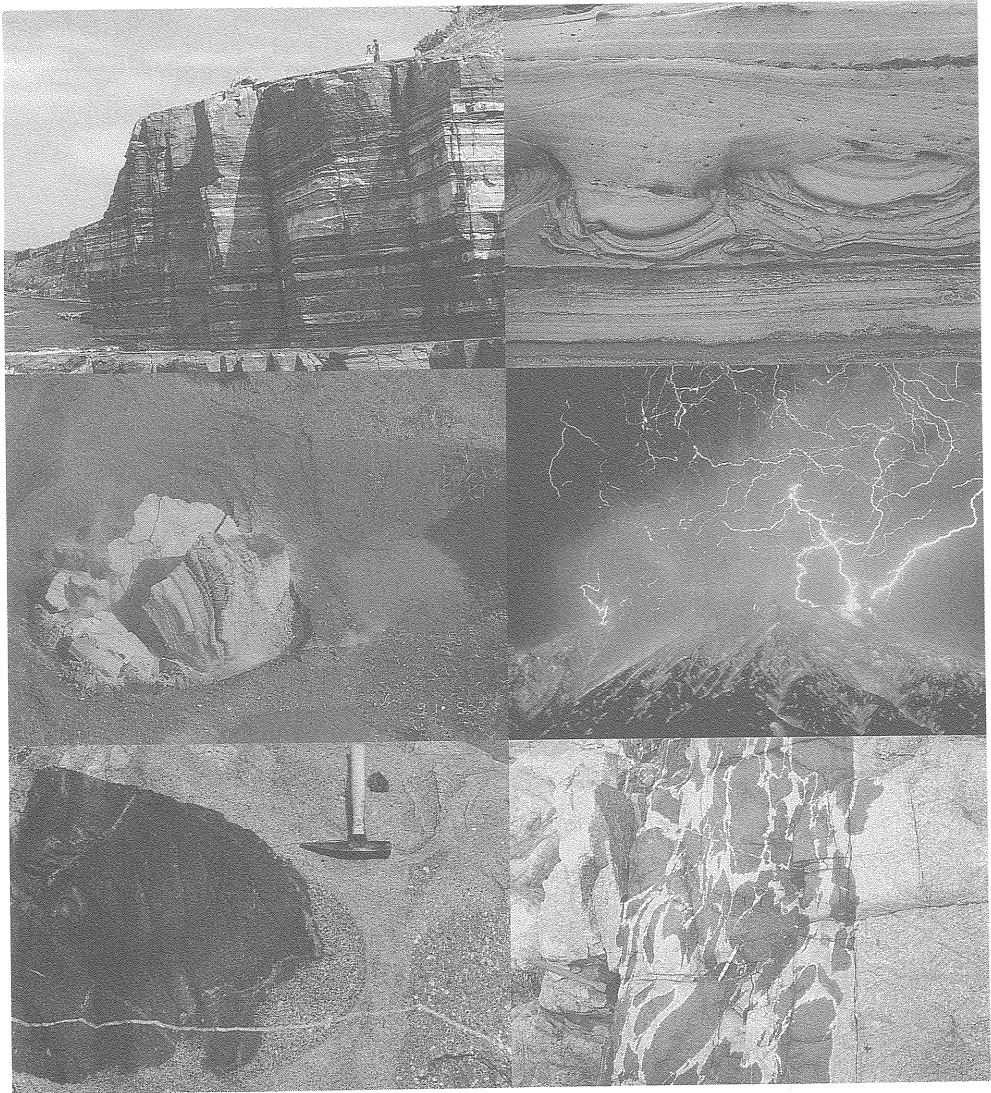


日本の地質 12 選 地質調査所 IGC 記念絵ハガキ



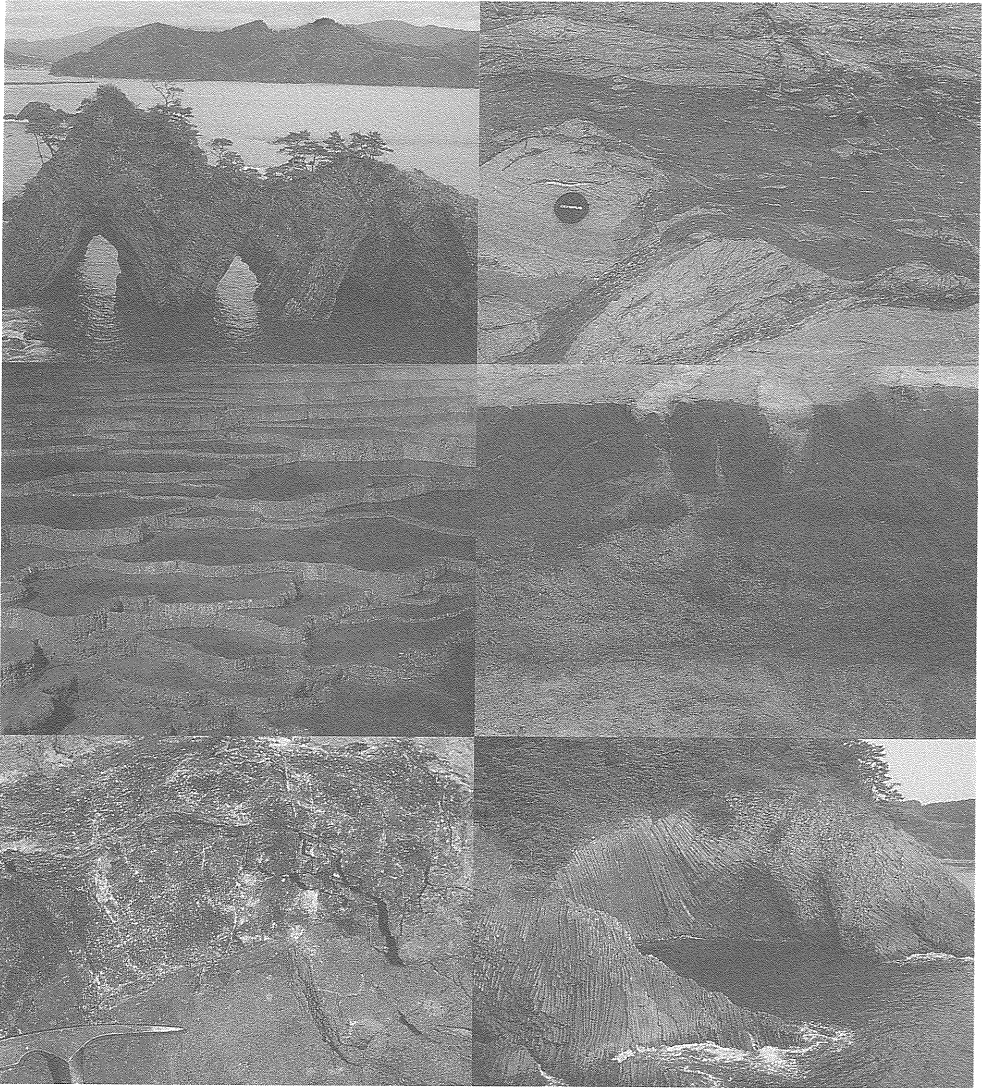
- 1(上) 砂岩頁岩互層：山口県須佐湾，中新性油谷層の天然記念物：ホルンフェルス化砂岩頁岩互層。石原舜三撮影。(107)
- 2(中) 雲仙岳噴火：1990年11月17日に始まった雲仙岳噴火活動において，地獄跡火口に最初に(1991年5月20日)出現したデイサイトドーム。太田一也撮影。(106)
- 3(下) 二重包有岩：北アルプス，奥黒部花崗岩中にみられる細粒閃緑岩と斑状花崗岩の二重構造を持つ包有岩。原山 智撮影。(6)
- 4(上) コンボルト葉理：高知県土佐清水市竜串，中新世三崎層群にみられる堆積構造，コンボルト葉理：絞り幕。石原舜三撮影。(52)
- 5(中) 噴火と雷光：桜島南岳山頂，噴火で派生した雷光。1987年11月17日夜7分露出。165 mm レンズ使用。野尻より西井上剛資撮影。(306)
- 6(下) 同時性岩脈：岐阜県神岡町の河床，船津花崗閃緑岩中にみられるアプライト相と同時性の苦鉄質岩脈。石原舜三撮影。(28)

注) ハガキのサイズは 10.7×14.9 cm，アートポスト 15.5 kg の用紙にプラスチックコート付き。印刷：創文印刷株式会社

第29回 IGC を記念して、地質調査所では写真の12枚組絵ハガキを出版し(編集:石原舜三前所長), 200万分の1 日本地質図(1990年出版)とともに参加者にプレゼントしました。IGC 事務局が作成した

別刷のおみやげコーナーでの売上枚数(解説文末尾カッコ内)を見ると、やはり“日本の風景”の人气が高かったようです。

(編集委員会 佐藤興平)



- 7(上) 海食洞：大船渡市碓石海岸の天然記念物：穴通磯。海食洞を持つ白亜紀前期の大船渡層群の砂岩頁岩互層。石原舜三撮影。(153)
- 8(中) 石灰石沈殿：山口県秋芳洞の天然記念物：百枚皿。地下水による石灰岩の溶出と溶存炭酸塩の再沈殿で生じた。石原舜三撮影。(38)
- 9(下) 鉄石英と黒鉱：鉄石英(赤色)は黒鉱鉱床最上位層を指示するが、ここでは狭義の黒鉱鉱体を覆い、更に変質玄武岩(緑色)に覆われる。秋田県鮎釣鉱山。浦辺徹郎撮影。(26)

- 10(上) メランジュ：岐阜県美並村、美濃帯の金山メランジュ(ジュラ紀後期-白亜紀最前期)。珪質頁岩に暗灰色頁岩が注入する。脇田浩二撮影。(23)
- 11(中) 液状化化石：大阪府西三荘・八雲東遺跡で発掘された慶長元年(1596年)の伏見地震による砂の液状化断面。寒川 旭撮影。(9)
- 12(下) 柱状節理：唐津市の天然記念物：セツ釜。鮮新世アルカリ玄武岩に発達する柱状節理。佐藤興平撮影。(69)